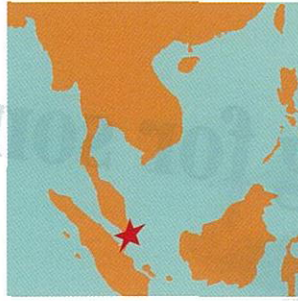


「沸騰都市」シンガポール

東京二十三区とほぼ同じ面積に、華人系、マレー系、インド系、その他合わせて五百万人以上が暮らす複合民族国家シンガポール共和国。多様な文化、言語、宗教が調和、融合し、独特な雰囲気醸成している。熱帯性気候で、年間を通して高温多湿。こ



●シンガポール●

シンガポール 日本人学校

の国はファイナンスセンターと呼ばれることがあるが、「きれい」であるとともに厳しい「罰金」で管理されている国でもある。一九六五年の独立以来、強力な政府のリーダーシップのもと、古くからの交通、経済の要所としての立地も生かしながら、英語を公用語として取り入れ、観光のみならず、IT、医療研究、経済等、さまざまな分野で急速な成長を成し遂げている。たいへん親日的で、日本の言語や文化に対しての興味関心も高い。

現地の教育環境

シンガポールの現地校では能力別教育制度が導入され、大学進学まで何度か試験による篩にかけられる。授業は基本的に英語を使って行われているが、各民族の母語（マレー語、中国語、タミル語）による授業も

あるため、外国人にとつては入学が難しく、インターナショナルスクールへの進学が大部分を占めている。

日本人の子どもにとつても同様で、学校の選択肢は、日本人学校かインターナショナルスクール（および補習授業校へ通学）のいずれかとなる。

帰国して受験をする場合は、日本人学校に入つて準備をするケースが多く見られる。

二十一世紀に生きる
日本人の育成

本校はシンガポール日本人会によつて設立され、一九六六年にシンガポール政府に登録された。現在は、小学部二校（クレメンティ校とチャンギ校）と中学部の三校体制によつて教育活動が推進されている。

本校の目指す教育は、二十一世紀に生きる日本人として「豊かな国際感覚をもち、世界の人々とならうとする人材の育成」である。これを達成するために、小学部・中学部ともに、

- ① 「生きる力」を育むための基礎
基本の徹底
- ② 英語教育の充実
- ③ 現地理解と交流教育の推進
- ④ ICT（情報通信技術）教育の
充実
- ⑤ 家庭・地域との連携



小学部クレメンティ校校舎



小学部チャンギ校校舎



中学部校舎

本校の目指す教育は、二十一世紀に生きる日本人として「豊かな国際感覚をもち、世界の人々とならうとする人材の育成」である。これを達成するために、小学部・中学部ともに、



小学部5年 現地校を招待しての交流(チャンギ校)



中学部1年 イマージョン体育
陸上競技(ハードル)の授業



小学部4年 英会話の授業
(クレメンティ校)



中学部 バス下校の風景

The Japanese School Singapore

URL <http://www.sjs.edu.sg>

児童生徒数 小=1258人 中=426人

子どもたちから

一番大事なあいさつ、えがおかすきな
学校だと思います。(小4)

建物の中から自然が
よく見える(小6)

を柱と定め、実践を進めている。
現在、小学部クレメンティ校で約六五〇人、チャンギ校で約六二〇人、中学部で約四二〇人が学んでいる。
小学部クレメンティ校の校舎は三十五年前の建築。来校者は「温かい感じで、どこか落ち着きますね」と言う。そのためか、子どもはのびのび、先生はいきいき、保護者は学校にとっても協力的なのが特色である。一年中続く三十度を超える暑さの中、中休み・昼休みには体育館や校庭で多くの子どもと先生がいつしよになって遊んでいる。昨年から校舎の改修工事が始まり、数年計画でリニューアルするが、「のびのび」はクレメンティ校の伝統として続いていくに違いない。
チャンギ校には、蝶の舞う「バタフライガーデン」や野鳥が訪れる「バードパーク、

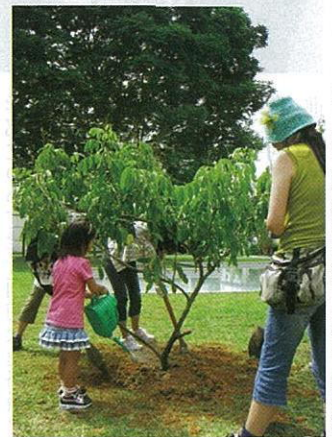
シンガポールのコインに描かれている草花を植えた「コインフラワーガーデン」や熱帯果樹園の「チャンギオーチャード」等を設置し、子どもたちに熱帯地域の自然に触れる機会を提供している。

また、三〇〇人以上の保護者ボランティアが授業支援や図書活動、環境整備を行い、より充実した教育活動を展開している。

中学部では、「一人に優しさ、自分に強さ」をスローガンに、合唱コンクール、体育大会、野外活動(二年)、修学旅行(二年)、現地理解活動(二年)、職業体験活動(二年)等の諸行事に取り組み、その過程をとおしてより高い自己実現をはかっている。また、暑さに負けず、週二〜三回の部活動に汗を流し、心身を鍛えている。

小・中学部ともに、イマージョン教育や少人数英語指導をとおして、国際人の基礎となる語学力を高め、それを生かして現地理解を深めている。

(二〇一一年七月現在)



PTAによる花ポランテア(チャンギ校)